

核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求めて ～平和行動in広島

平和行動in広島を、8月5～7日に開催し、産別から8名が参加しました。

1日目は、現在も現役で走っている「被爆路面電車」の乗車学習会への参加や、「2013連合平和広島集会」で折鶴4,000羽を献納、「平和の光」ではペンライトを持って原爆ドームを囲み、平和を誓い合いました。

2日目は、「広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式」に参列し、原爆投下のあった8時15分に黙とうを捧げました。その後、平和記念資料館を見学し、戦争の歴史や原爆投下後の悲惨な状況などを学びました。

最終日は、ピースボランティアの解説により平和記念公園内の慰霊碑等について学び、平和の子の像へ折鶴7,000羽を献納しました。その後、被爆体験講話として、平和記念資料館の9代目館長を務められた原田浩さんから、6歳の時に広島駅で被爆した当時の様子や現在の資料館建設を手掛けたことなどについて話を聞きました。

今回の行動では、被爆体験講話を2度聞くことができ、語り部の方々が高齢化と原爆症による病気を抱え、命を懸けて被爆体験の証言を行い、核兵器廃絶を訴える姿が印象に残りました。



平和の光に参加し、平和への祈りを捧げる

次世代へ語り継ごう被爆地長崎の思い ～平和行動in長崎



ピースウォークにて
平和祈念像の前で平和を祈る

平和行動in長崎を、8月8～10日に開催し、産別・地協から14名が参加しました。

核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求め、開催された連合主催の集会では、「2015核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議へ向けた課題と対応」と題した基調講演が行われ、長崎大学核兵器廃絶研究センターの廣瀬副センター長から、今年4月にジュネーブで開催された核不拡散条約(NPT)再検討会議準備委員会で提出された「核兵器の非人道性を訴える共同声明」に、日本政府が署名しなかったことを取り上げ指摘していました。また、高校生平和大使の取り組み報告では、「ピリヨクだけどもリヨクじゃない!」をキャッチフレーズに活動し、被爆地長崎の若者の平和に対する真剣な願いを訴え、国連に大きな影響を与えていることなどについて報告がありました。さらに、連合長崎の組合員と家族約100名による「構成詩 親子で綴る平和の願いVII」では、恒久平和と核兵器廃絶への思いが込められた歌と被爆体験などが朗読されました。

また、組合員に協力いただいた24,309名分の「核兵器廃絶高校生1万人署名」を現地の高校生へ届け、27,000羽の「折鶴」の献納を行うと共に、ピースウォークや長崎市主催の祈念式典へ参加し、被爆地長崎の核兵器廃絶の思いを受け止め、職場や地域へ伝えることを心に誓いました。

戦争の体験を次世代へ～恒久平和を願いパネル展を実施～

8月1～19日に群馬県勤労福祉センター、2～6日に県庁県民ホールで、戦争の記録や連合群馬の平和行動を紹介する平和パネル展を開催し、両会場合わせて1,200人を超える来場者がありました。

勤労福祉センターでは、連合群馬の平和行動の紹介を中心に約40点、県庁では地上戦が行われた沖縄の記録や原爆投下後の広島・長崎の被害についての記録の他、太田市空襲時に墜落したB-29に関する資料、空襲で焼失した前橋市内の写真、北方領土の歴史や不法占拠の実態の解説など約120点の資料を掲示しました。

来場者の中には、空襲を体験された方がいて、「若い人達に戦争についてもっと知ってもらいたい」と話し



鶴を折る子どもたち



戦争の生々しさを伝えるパネルに見入る来場者

ていました。また、空襲後の壊滅した都市の写真がゲームの画面だと思い込んだ子どもに、「昔、本当にあった戦争の写真だよ」と説明する両親の姿もありました。

本パネル展は、沖縄・広島・長崎などの戦跡を、直接見聞きすることができない方々へ、戦争の悲惨さと平和の大切さを知ってもらい、恒久平和を願う気持ちの醸成を目的に、群馬県教職員組合と北方領土問題対策協会、太田で活動するトンネルの会などの協力を頂いて開催しました。